

令和4年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22029	事業名	ごみ溶融処理施設大規模整備事業		評価分類	A1		
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()					担当部署		
	施策体系	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上			予算科目	会計	01:一般会計	
		基本施策	08:脱炭素社会の実現に向けた取り組みの推進と循環型社会の構築				款	04:衛生費	
		施策の方向	04:廃棄物処理施設の適正管理				項	02:清掃費	
重点プロジェクト	-			目	02:塵芥処理費				
事業期間	H 27 年度 ~ R 7 年度		主な根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律					

部	産業環境部
課	環境課 廃棄物対策G

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	ごみ溶融処理施設は平成12年の稼働から長期間が経過し、主要な設備が耐用年数を迎えるなど老朽化が進行しており、施設の延命化を図っていく必要がある。	ごみ溶融処理施設	ごみ溶融処理施設の延命化を図る。	総合環境センター溶融施設長寿命化計画に基づき、主要な設備・機器の更新や改良工事を行う。また、さらなる延命化を進めるため、長寿命化計画の見直しを行う。

年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
③ 事業の実施状況 (P・D)	事業計画	○大規模整備工事 ○長寿命化計画の改訂	○大規模整備工事	○大規模整備工事	○大規模整備工事		
	活動実績 (計画通り実施できたか)	総合環境センター溶融処理施設長寿命化計画に基づき主要な設備、機器の整備工事を実施した。 ○溶融炉設備、溶融物処理設備など 現長寿命化計画を見直すための業務を発注し、今後の整備工事の方向性を検討する情報、資料を得た。					
計画額	事業費	事業費	147,700千円	143,990千円	146,000千円	142,000千円	136,000千円
		国・県支出金					
		地方債	108,000千円	107,200千円	109,500千円	106,500千円	102,000千円
		その他					
決算額	事業費	事業費		143,990千円			
		国・県支出金					
		地方債		107,200千円			
		その他					
①期間内事業費(R4-7)		571,700千円	②期間外事業費(R8-)	0千円	①+②総事業費	571,700千円	

(令和4年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	143,990千円
次年度への繰越額	0千円

④ 指標 (C)	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	大規模整備工事の進捗率	実施済み事業費/総事業費	活動	%	計画値 実績値	65 65	77	89	100
				計画値 実績値					
				計画値 実績値					

⑤ 成果 (C)	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)	
	A	当事業により老朽化、耐用年数を迎えた主要な設備や機器を整備することができた。このことにより、施設の適正管理と安全安心で効率的なごみ溶融処理が可能となった。
	十分な成果を得た	

事業の対象	事業の目的
ごみ溶融処理施設	ごみ溶融処理施設の延命化を図る。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	設備、機器の中には実際の劣化状況が、ごみ溶融処理施設長寿命化計画の予測を上回る状況にあるものがある。効率的なごみ溶融処理を実施するためには、設備診断による劣化状況を把握し、設備、機器の更新時期や内容を見直す必要があったため、現長寿命化計画を見直すための業務を実施した。成果内容を精査し、今後の整備工事の方向性を検討する必要がある。

⑦ 事業の 展開 (A)	方向性	
	継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容	
	令和5年度で対応する(した)もの 令和4年度に実施した長寿命化計画の内容を精査し、今後の整備工事の方向性などを検討する。	令和6年度以降で対応するもの 見直された計画に基づき整備工事を実施する。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A			
事業展開	継続(現状維持)			

【履歴】

1次評価者	産業環境部 環境課 廃棄物対策GL 葛西 裕二
最終評価者	産業環境部 環境課長 村田 博